



一般財団法人
広島 YWCA
Hiroshima

2016年
10月号

<http://hiroshimaywca.jimdo.com/>

発行所：一般財団法人 広島 YWCA (仮会館) 〒732-0053 広島市東区若草町 6-7 広島主城教会気付 TEL/FAX (082) 258-4878

広島 YWCA 使命

- ①憲法の謳う恒久平和実現のため、
第九条の非武装・不戦の誓いを広げる。
 - ②被爆の実相を継承し、ヒロシマの声を発信する。
- 2016年度広島 YWCA 運動の課題**
- ①憲法9条を守るための活動をする。
 - ②原子力発電を否定し、ライフスタイルを見直す。
 - ③敗戦・被爆 70 年を過ぎ、被爆証言を若い世代に届ける。

広島 YWCA の基軸は平和活動とみたり

広島 YWCA 副会長・理事 馬庭恭子



今年8月6日 広島派遣事業で来広した夕張の中学生とともに
(右端 馬庭副会長)

YWCAとの関わりは遡ると40年前となります。足を最初に踏み入れたのはかつての軍都にある呉YWCAでした。郷愁漂う古い木造建物はどこか学校の分校といった感じでした。2年間、一会員として、英語と女性史を読む会に参加していました。特に女性史を読む会においての、女性の権利をはじめ白熱の議論は、私の人生に大きな「目覚め」を与えてくれました。そのとき行動を共にした人たちは時が流れても同一線上にいる安心感と繋がっている感があります。

さて、広島YWCAとの関わりです。4年間の評議員として、現在3か月目の理事として、財政、活動実態など全体像を把握しつつあります。今回、平和活動部会の担当理事として、部会メンバーと一緒に動くこと(建物疎開で亡くなった動員学徒の碑めぐり、サイレントアピール9の日行動など)により一層理解が深まりました。被爆都市ヒロシマとしての原点を押さえ、「世界平和」を地道に訴える小さな動きは、継承すべきものです。広島には、学生はじめ、各団体が様々な形態で平和活動を展開しています。それぞれネットワークを拡大しながら、自分たちの活動を深化させています。広島YWCAの活動は、地域YWCAとして、広島地であるからこそしなければならぬ、そしてこそ意味がある、やりつづけなければならぬという認識がメンバーにあります。この認識こそが大領が来広し、17分の演説をしました。「核なき世界」とプラハで演説、そして、ヒロシマで

格調高いスピーチ。残っていた2羽の千羽鶴。確かに歴史的瞬間だったかもしれせん。しかし、いま「核の先制不使用」の声明は、複雑で国際的な政治の思惑のなかで埋没していつています。私たちの平和への思いは色あせません。なぜなら、小さな活動ですが、思惑はなく、正面から、人に伝えるからです。



今年8月5日「建物疎開作業で亡くなった動員学徒の碑めぐり」の様子
広島YWCAの幟を目印に、参加者が国泰寺から山中高女・第二県女(雑魚場町建物疎開跡)に向かって歩く

2016年度 夕張プログラム報告

広島 YWCA 夕張中学生受け入れ担当 中木風子・藤井瑠璃子

今年から夕張プログラムは、主催が「夕張市教育委員会」となりました。広島 YWCA は、夕張市教育委員会より依頼を受け、中学生の受け入れを行う形で、夕張市の中学生の平和学習に携わっていくことになります。本取り組みに尽力された故沼田鈴子さんとのつながりを大切に、引き続き「被爆アオギリの願いを広める会」の皆さまに歓迎会でメッセージをいただきました。今田洋子さん・多賀俊介さんには、平和記念資料館や平和公園の案内をしていただきました。朗読グループ「夾竹桃」による被爆体験の朗読は、心に響くすばらしいものでした。

また、今回、ヒロシマ子ども平和学習支援議員連盟の皆さまにはプログラムへの多大なるご協力をいただきました。こころより感謝申し上げます。



夕張プログラムスケジュール

中学生の動きを中心とした、大まかな日程の様子です。

8月4日(木)	第1日目
14:35	広島空港 着
15:45	歓迎会 受付
16:00~17:00	歓迎会 (広島主城教会 会堂)
17:00	後片付けと休憩、移動
18:00~19:30	歓迎夕食会 (お好み焼き 花子)
8月5日(金)	第2日目
8:00~9:00	こども広場 (献詩、折り鶴献納)
9:00~10:30	平和資料館見学 (ガイド 今田洋子さん)
10:30~12:00	平和公園内碑めぐり (ガイド 多賀俊介さん)
14:00~	8・5フィールドワークに参加
17:00	終了
8月6日(土)	第3日目
7:00	平和記念式典会場へ出発
8:00	平和記念式典
10:30~11:30	被爆証言 市役所議会議棟
11:30~12:00	広島YWCA朗読グループ「夾竹桃」
12:00~	昼食 お弁当~おむすび
13:00	水上バス (アクアネット広島) 宮島見学
18:00	夕食と振り返り(会場:アグリ)
19:30	灯籠流し⇒宿泊先へ
8月7日(日)	第4日目
9:00	リムジンバスで広島空港へ出発
12:45	広島空港 発 (ANA678)



歓迎会で夕張のプレゼンテーションをする夕張中学校3年生の本間遥さんと山崎彩巴さん。二人は生徒会役員としても活躍しています。

(右端、引率の木下裕敬教諭) ↓



「被爆アオギリの願いを広める会」のみなさまと一緒に



資料館見学を終えて、今田洋子さんと



被爆証言者 笠岡貞江さん



NHK 出山記者より 取材を受けて



朗読グループ「夾竹桃」による朗読

中学生は学校の文化祭で、今回の学習レポートを発表します。二人とも旅行中から、この学習内容をどのようにまとめて伝えていくか話し合いながら、一生懸命取り組んでいました。

会員や賛助員、会友の皆さまには、歓迎会での温かなお迎え、4日間のプログラムを通してのアテンド、安全に終わるための事前の段取りなど、ご協力をいただき、無事プログラムを行うことができました。被爆体験を若い世代に伝える取り組みの一つとして、来年の受け入れも注力していきましょう。



歓迎夕食会にて
「子どもヒロシマ平和学習支援議員連盟」の皆さまと一緒に

【報告】 子ども食堂 67Y-w カレーパーティー

広島 YWC 会長・代表理事 中木風子

広島 YWCA では、この度、地域の皆様とともに、子どもたちの成長を健やかに見守る活動を 67Y-W (ロクナナヤーン・ワカクサ) と名付け、スタートいたしました。支援活動の取りかかりに、月に 1 回、カレーパーティーと称した子ども食堂を実施しています。

7 月 26 日 (火)、8 月 23 日 (火)、9 月 27 日 (火)、3 回行ったカレーパーティーでは、のべ人数で 110 名の大人と、のべ 40 名の子ども参加があり、ともに時間を過ごしています。8 月には中国新聞のジュニアライターから、取材の申し込みがあり、子ども支援活動に対する世間の関心の高さを感じています。

本活動は YWCA 会員の皆様を中心とした、ボランティアに支えられています。40 名分の食事づくり、会場のセッティング、コミュニケーションを重視した遊びのプログラムなど、当日の運営はもちろんのこと、献品や寄付、事前の準備、地域への理解と周知を深めるための訪問、ボランティアさんの事前ミーティングなど、多岐にわたっています。

支援活動を行うにあたって、サポーター養成講座も行っています。ボランティアの皆さまが参加しやすいように、子ども食堂と同じ日に行います。1 回目「子どもの貧困とサポートについて」2 回目「人の人生を支援するとは」という内容で、広島国際大学医療福祉学部教授・岡崎仁史さんに講演していただきました。講座の内容は、社会における福祉に関するさまざまな問題に通じているもので、参加者から好評です。どなたでも参加できる勉強会のようになっていますので、お時間のある方は、ぜひご参加ください。サポーター養成講座は次回 11 月を予定しております。

今後の課題として、提供するメニューの拡充や、学習支援、参加する子どもの送迎など、クリアしていかなければならないことが多くあります。引き続き、皆様のご理解、ご支援の程、お願い申し上げます。



9 月のカレーパーティーの様子



岡崎先生を招いてサポーター養成講座



自分で工夫する、釣りゲーム



こころの本棚では、自己啓発や生きかたのヒントになるような本を紹介していきます。

画家の視点から絵画を見る、時代の息遣いを感じる絵画解説

『巨匠に教わる 絵画の見かた』

ゴッホがルネサンス前のジョットという画家についてこんな感想を残しています。

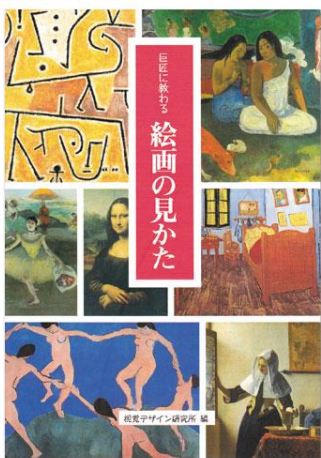
「たくさん見たわけではないがジョットはすごい。過去の画家だなんて信じられない。もし金さえあればたくさん模写をしたいのだが、、、」

この言葉だけで「ジョット」という画家に興味を湧きませんか？そして、ゴッホを素朴な人格として身近に感じませんか？

絵画鑑賞の howto 本は世に多くありますが、中でも本書『巨匠に教わる絵画の見かた』は、美術史、用語解説、作家解説の本として画期的です。本のタイトルにある”巨匠”というのは、評論家ではありません。美術史に出てくるアーティストたち、その人たち自身を指しています。同世代の画家同士の手紙のやり取りや、後世の画家の残した文献をもとに、画家の視点から見た作品解説が魅力です。

日本で人気のある印象派の画家達は 1800 年代を生きて、ルーブル美術館で 1400 年代のルネサンスの巨匠たちの作品の模写を行い、自分の表現に生かしてきました。絵の鑑賞は自分の感じるままでもいいと思っています。そこに、自分の知っている作家がこんな風にこの絵をみていた、という視点や考え方の違いを知ることができたら、より知識に幅をもたせてくれたり、興味深く感じたりするきっかけになるのではないかと思います。この視点の違いこそが、自らの考えを持ち、必要な情報を取得、選択する力になっていく、一つの要素だと思うのです。

さて、私はエルグレコというイタリア人画家が好きなのですが、エルグレコはピカソから強く影響を受けていることを本書で知りました。ひろしま美術館にはピカソの青の時代の作品が収蔵されています。ピカソの絵を鑑賞する際には、エルグレコの面影を探してみたいと思います。



著者／早坂優子

出版社 視覚デザイン研究所

発行年 1996 年

「キリスト教あいうえお」

足立三すえ

(広島YWCA会員・広島主城教会牧師)

第6回 『う』③



聖書を読むときの面白さは、すべての人が過ちを犯すことが描かれていることです。どんなに正しいように見える人でも例外ではありません。当然今を生きている我々の近代の価値観からみて到底理解できないこともたくさんありますが、その中に神のメッセージがあります。

そこで描かれるのは人間の姿です。前回では出エジプト記が創世記よりも古い伝承で伝えられてきた物語だということをお話しました。パレスチナに住んでいたイスラエルの人々に飢饉が襲いかかった時に、肥沃なナイル川のある豊かなエジプトに避難するということがしばしばあったようです。その都度、自分たちの信じる神よりも他の神の魅力のとりこになっていったのかも知れません。エジプトに残るグループも、また自分たちの先祖の地に帰っていったグループもあつたことでしょう。出エジプト物語はエジプトに残ったグループの物語といえます。旧約聖書に登場するイスラエルは北からパレスチナに入った人々がアブラハムの物語を保持したグループと南から入った人々がエジプト脱出した物語を保持したグループがあります。

この金の子牛の物語は南から入ったグループが保持していました。この物語は神を信じるための試練なのです。パレスチナでの飢饉から逃れるためにエジプトの寄留民になったけれども、その豊かな地で神の祝福を受け彼らの数が多くなり、エジプトにとっては脅威となったとあります。地上での豊かさの中で人は試練を受けるのです。異論はあるかと思いますがヨブもその一人でした。モーセはエジプトで犯した罪に恐れおののき、ミディアン(今のイラン)に逃れます。そこでミディアンの祭司の娘と出会い結婚します。モーセは義父の羊の群れを飼う仕事を始め、神の山ホレブに迷い込みました。その時、柴の木が燃えている中に、主のみ使いを見出しました。これがモーセの召命です。ここで神は「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」とモーセに声をかけられます。(聖書が編纂される時に、北と南のグループが保持していた物語が整えられました。)主は彼の同胞がエジプトで苦しんでいることを知られたのです。神が示されたことがモーセの召命

となつていきます。

「わたしは、エジプトにいる私の民の苦しさをつぶさに見、追いつくものゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った」といわれました。神はモーセを通してエジプトからご自分の民を救い出すという計画を語られます。モーセは主の呼びかけにすぐには応じることができませんでしたが、しかし神はモーセに「わたしは必ずあなたと共にいる」との約束を与えられ、神の名を「ありてある者」と示されました。モーセはこの神の働きかけに逃れることはできないと悟り、覚悟を決めます。そして40年の荒野でのさまよいの旅がはじまります。エジプトの国から出発したのはいいのですが、その後の神との約束、「乳と蜜の流れる地」にいたるまでの道のりが人々には耐えられるものではありませんでした。

けれども、たびたびの試練を乗り越えることによつて、歩みが進められていきます。金の子牛の物語はその中でもたいそう重要な意味を持ちます。神が自分の民としてくださったことに対して神を自分たちの神とする大きな転換点であつたのです。

物語はモーセが民から離れて神にホレブの山に呼び出されます。そして十戒が与えられます。その内容について縷々と語られるのです。これはモーセへの、そして民へのギフトでした。しかし、民はモーセがなかなか帰ってこないこと、あるいは自分たちは捨てられたように思ったのかもしれない。モーセの兄アロンは人々が身につけていた金を集めて子牛を作り、人々が不安と疑いの中から神を見失いました。人々には不安と疑いの中から神を見失い、子牛を拝み敬ぶべきことをしたのでした。神はすべての民を滅ぼしつくすとお怒りになりました。神はモーセを大いなる民とすると言われ、モーセはモーセが神をなだめ、民のとりなしをするという、人間的な関わりを私たちが見るようになります。ひよつとすれば、神とモーセの距離の近さはうらやましくもありません。

【お知らせ】

8月ニュースで予告した、ホスピス医 川越厚先生の講演会の詳細が決定しました。

川越厚講演会「おひとり様の在宅死—なぜ家か?—」

日時:2016年10月28日(金)10:00~11:30

会場:サテライトキャンパスひろしま 502 会議室

広島市中区大手町1-5-3 広島県民文化センター5階

参加費:999円 定員:100人

申し込みは広島YWCAまで TEL 082-258-4878

*より詳しい内容はニュース同封のチラシをご覧ください。

清鈴園奉仕参加の呼びかけ

平和活動部会

10月31日(月) 10:00~14:00

特別養護老人ホーム清鈴園

(広島県廿日市市原 362 番地の2)

において、清掃などの奉仕活動を行います。

皆様のご参加、

お待ちしております。



《 感 謝 》

2016年8月1日~2016年9月30日(敬称略)



(賛助費) 渡部和子 松谷育子 山崎敦子 澤野正子

(一般寄付) 篠田恵 三上恵子 南原麻里 竹原陽子 難波郁江 谷口沢枝 てのひら 御手洗裕紀子 野のユリの会

ご協力に心よりお礼申し上げます。

《理事会・定例会》

9月 第3回 定時理事会 (日時:2016年9月13日(火) 19:00~ 21:00 会場:広島YWCA 仮会館)

1、前回事務録の確認 2、報告事項 ①会計報告 ②人事報告 ③部会報告 ・広報部会 10月ニュースについて、同封チラシの確認 ・平和活動部会 8.5フィールドワーク、9の日行動のふりかえり 今後の予定 サークル「カナナの会」性差別問題学習会 9/30、2016年度後期平和講座について ・HEP 部会 若草晚餐会 8月のふりかえり「トルコのカレー」参加者9人 ・募金事業部会 川下ヒロエさん詩画展取り組みについて、12/3 クリスマスのつどいチャリティオークション、ミニバザー、クリスマス献金のお願ひ ・キリスト教基盤部会 11/11 合同祈禱週広島集會、クリスマスつどいについて ・夕張中学生平和学習受け入れ 報告・意見交換 ・生涯教育事業 10/1「ピーター・パラカンDJライブ」役割分担、10/28川越厚さん講演会テーマ・会場について、10/11 手作りカフェ陶芸の時間 ④ひろしまを考える旅ふりかえり ・第32回会員総会参加者の確認(代議員:中木風子、平城智恵子 / 傍聴:難波郁江、馬庭恭子、中島睦) 3、協議事項 ①会員総会陪席・傍聴者への費用補助について ②地域YWCAを主体とした活動の展開について ③長期会館計画「子ども食堂」について・三井リパーク駐車場契約更新について 4、その他 全国会員総会での取り組み事項について・日本YWCA 新幹事研修担当(平城幹事 2016年10月13日~16日於:名古屋)

議題に関し、報告、協議、決定を行った。